

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472800701
法人名	株式会社ウェルフェア
事業所名	グループホームふたみ
所在地 (電話番号)	伊勢市二見町松下1349-64 (電話) 0596-44-0066
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 6 月 22 日(金)

【情報提供票より】(H19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 11人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨・木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円 ~
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85.6 歳	最低 97 歳	最高 75 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神戸クリニック 山本医院 ふじなみ歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣に風光明媚な夫婦岩等を有し、緑豊かな自然に恵まれたホームである。共有スペースの窓から、五十鈴川を行き交う船やアサリを獲る風景を眺めることができる。それらは四季を体感でき、利用者の楽しみごとになっている。高齢者福祉に熱意をもって取り組んでいる経験豊かな管理者のもと職員も理念「のんびり、一緒に、楽しみながら」を共有し、利用者一人ひとりの希望や意見を尊重し個々に対応している。全職員が順次なんらかの研修に参加し、月1回の発表会で報告し、レベルアップを図っている。家族からも「此処はいつ来ても楽しい会話があり、本人も楽しそうである」等の感謝の声がある。利用者が職員に本の読み聞かせを行っている光景は楽しく、笑い声とユーモアの絶えない、明るいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回調査の改善課題であった「利用者一人ひとりの水分補給量の把握」と「全職員の応急手当の研修・訓練」は直ぐに改善されていたが、「気軽に入れる玄関周りの配慮」はハード面で困難なこともあり、家族・職員の意見を聞きながら現在も検討中である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>管理者・職員ともに調査の意義や目的をよく理解しており課題の検討改善に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>民生委員・家族代表・市職員・主治医・ホーム管理者・計画作成担当者が出席し、検討事項や懸案事項についてその経過を報告している。ホームの主治医からの「医療との連携について」の報告後意見交換を行い、それらをサービスの向上に具体的に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>共有スペースの入り口に夫婦岩由来のカエルの形をした意見箱を置き、少しでも家族が苦情・要望・意見を言いやすいように配慮している。また家族の訪問時何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。それらからでた意見などは運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣に民家は少なく、地域との連携の機会が少ないが、散歩時に行く道の駅などで交流を図っている。また民生委員の集まりに参加し、利用者が地域とつながりながら暮らせるように努めている。認知症介護の専門家としてホームの力を地域の高齢者の暮らしに役立つよう取り組まれることが期待される。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「のんびり一緒に楽しみながら」をホームの理念としているが、長期的な目標にする具体的な地域密着型サービスとしての理念を現在職員から募集中である。	○	具体的なイメージを持って地域密着型サービスの意義を職員全員で確認することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について各ユニットのケア会議ごとに話し合い、また日々の申し送り時などでも確認しあうようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣は民家の少ない立地条件であり、地元の方々との交流は困難な面もあるが、散歩の途中には近くにある「道の駅」に立ち寄り地域の方と交流を図っている。	○	対人援助・認知症高齢者の介護の専門家としてホームの力を地域の高齢者世帯、高齢者独居世帯などの暮らしに役立つように、ホームが有する資源を地域へ還元し、地元住民との交流を深める取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員が理解しており、サービスの質の確保に活かしていく姿勢がある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、自己評価や外部評価を説明して、話し合い、そこで出た要望や主治医からの意見をサービス向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は伊勢市介護保険サービス事業者連絡会施設部会の幹事や南勢志摩社会福祉士会副会長などを歴任している。行政と常に連絡をとり、情報を得るようにしてホームのサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだより「ひまわり通信」を作成し、利用者の暮らしぶりや健康状態などを定期的に報告をしている。また外出時の写真などは個々に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には電話や手紙また訪問時に常に問いかけ、どんなことでも言ってもらえる雰囲気作りをしている。出された意見や要望はサービスの質の向上に反映している。(夫婦岩ゆかりのカエルのかたちの意見箱も設置している)		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代がある場合は利用者へのダメージが極力すくなくなるように配慮し馴染みの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、経験豊かな社会福祉士であり、職員の意見を聴き希望の多い救命講習など研修会への参加には積極的な取り組みをしている。職員が順番で研修会に参加し月に1回定期的な報告会を行い他の職員との情報共有にも努めている。全ての職員を地域密着型サービスの従事者としての育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣のグループホームと交流の機会を持ち積極的な情報交換がおこなわれていてサービスの質の向上に努めているが職員はまだその機会を持っていない。	○	現在は管理者だけが地域の同業者と交流の機会をもっている。職員同士のネットワークづくりや勉強会、相互訪問などの活動を通じてサービスの質の向上が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人にはできるだけ時間をかけて雰囲気慣れてもらい、他の利用者や職員と顔見知りになってもらうことに努めたり、体験入居をしてもらうこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が好きな本を職員に読み聞かせ、職員・利用者ともに喜怒哀楽の共有や利用者自身の意見を出せる場面作りの支援をしていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式のよいところを取り入れながらホーム独自のものを検討している。本人にできるだけ寄り添い意志の疎通を図りながら日々の表情や行動から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族・利用者によく話し合い、職員全員でプランを作成し、共有して介護に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員参加でモニタリングを行い、変化があればそのつど見直し、3ヶ月ごとの評価を行い、家族の意見も聞きながら介護計画を更新している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者一人ひとりのその時々希望を大切に支援している。協力医療機関と連絡を密に取り、利用者に負担にならない医療処置を受けながら生活の継続ができるように柔軟な支援をしている。	○	隣接した敷地に小規模施設建設の予定がある。グループホームの多機能性を強化されることが期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と良好の関係が築かれており、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医の理解や往診医療の協力を得て、家族とも繰り返し話し合い、全員で共有する。	○	ハード面で困難なこともあるとおもわれるが、家族からの希望もありまたホームの熱い想いでターミナルケアへの取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての職員が利用者一人ひとりの誇りを尊重しながら接している。また個人情報保護についても良く理解して支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム ふたみの理念である「のんびり、一緒に、楽しみながら」を実践し、職員側都合を優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースを大切にして日々のその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるように雰囲気作りし、利用者一人ひとりのペースで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの意向をたいせつにして、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。(菖蒲湯や柚子湯など季節ごとの工夫もある)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけて支援をしている。(本の読み聞かせや碁など職員を生徒にして経験を発揮する場面を作っている)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの道の駅や夫婦岩の見える場所までの散歩・外食喫茶などを支援しているが一人ひとりの希望にそっての戸外へ出かけることは少ない。	○	利用者・家族・管理者・職員の希望でもある外出の機会を多くし、利用者の懐かしい場所や行きたい場所などへの外出支援が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の出入り感知するセンサーが設置されている。職員の見守りを徹底して、利用者一人ひとりの状態を把握して日中は玄関の鍵はかけないケアを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て火災訓練は定期的に行われているが、地震・水害などの訓練はまだ行われていない。ホームは海や川の近くに位置しており、地震や水害時を想定し、実践的な訓練の予定をしている。	○	職員だけの避難には限界があることを認識し、日ごろより地域や警察署・消防署などと連携をはかりながら災害時の支援体制整備に取り組まれることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの体重の増減を常にチェックし、栄養の偏りや水分不足にならないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は随所にソファがあり、利用者同士・職員と利用者が居心地よく過ごせる場所になっている。昼コーナーの窓からは五十鈴川を行き交う船やアサリを獲る風景をながめ、生活感や季節感を採り入れることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの居室に使い慣れた物品など居心地よく過ごせる工夫がある。家族などの面会時は居室で湯茶・菓子など個々の楽しみ方をしている。		